

平成 30 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 30 年 10 月 29 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 董 彦 文

| | |
|------------------------|--|
| 助成事業の区分 (該当するものに○印) | 研究協力に関する事業 (学会参加) |
| 事業名 | 経営情報学会 2018 年秋季全国研究発表大会 (国内) 課題番号: 18FD022 |
| 事業実施期間 | 平成 30 年 10 月 20 日～平成 30 年 10 月 21 日 |
| 成果の概要 | <p>経営情報学会 2018 年秋季全国研究発表大会は 10 月 20－21 日近畿大学東大阪キャンパスにて開催された。この大会に参加し、「セル生産実験における大学生と社会人の作業効率に関する比較研究」を題目とする研究発表を行った。</p> <p>数多くの企業において、セル生産方式を導入し、生産効率の向上やリードタイムの短縮など様々なメリットを得られている。セル生産では、作業員一人あたりの担当作業が多く、責任範囲が広い。生産性は作業者の技能・適性により大幅に変わり、適性の高い作業者の活用が重要である。申請者は、セル生産の効率と作業者の適性との関連を調べるために、多数のセル生産実験を設計・実施した。これらの実験では大学生が作業者として実験に参加したため、研究成果を一般の社会人作業者に適用しようとするとき、社会人作業者と大学生との差異を調べる必要がある。本研究では、一般社会人 40 人を作業者としてセル生産実験を実施したうえ、実験データに基づき、作業効率、学習効果などの視点からセル生産における大学生と一般社会人との差異を定量的に比較した。この結果、(1)決められた時間内で与えられた作業を完成させる能力の面においては、顕著な差異を見られたこと、(2)大学生作業者の作業効率は社会人作業者より 10%以上高いこと、(3)組立の繰り返しによる学習効果に関しては、大学生作業者が社会人作業者より 10%以上顕著であること、などが明らかになった。</p> |